

1 研究の概要

(1) 研究主題について

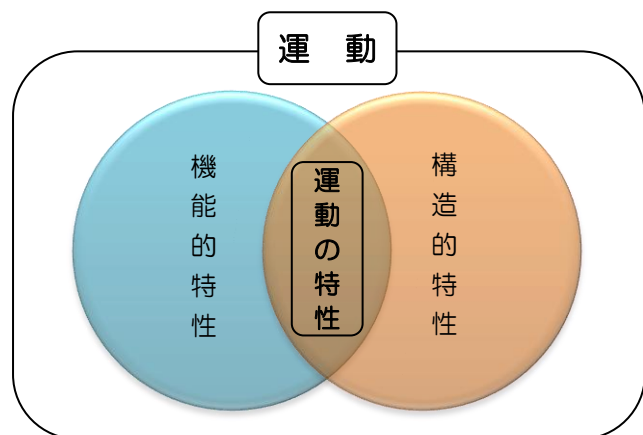
多様で変化の激しい21世紀を生きる子どもたちに「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を図り「生きる力」をはぐくむことは、学校教育の大きな目的である。その達成に向け、体育の果たす役割は大きい。運動することは、身体能力・体力を高め、情緒面や知的発達を促し、特にゲームやボール運動は、コミュニケーション力や論理的思考力も高める効果が期待できるからである。

現在、子どもの体力の低下傾向や積極的に運動する子どもとそうでない子どもの二極化、生活習慣の乱れやストレスによる健康への悪影響等が指摘されており、本校児童も少なからず同様な傾向がある。子どもたちが、生涯にわたって運動に親しみ、主体的に運動を生活の中に取り入れることができれば、このような現状も打開でき、生きる力の育成につながると考える。

本研究では、子どもたちに「運動の楽しさ」を感じさせることにより運動に親しむ資質や能力の基礎が育ち、生きる力の育成につながると考え、研究主題を設定した。

(2) 副主題について

子どもたちが「運動の楽しさ」を味わうことができるようにするためには、「運動の特性」を重視した授業改善が必要と考える。「運動の楽しさ」は、それぞれの運動・スポーツが有する技術やルールなどの「運動の特性」から生まれるもので、その内容を理解し、授業の中で学ばせることが重要と考えた。



「運動の特性」とは、機能的特性と構造的特性が調和したものである。

○「機能的特性」は、児童が「楽しい」と感じる、その運動そのものの「楽しさ」である。

(例えば、バレーボールでは、相手のコートにボールを落とすこと、または自陣コートにボールを落とさせないこと。)

○「構造的特性」は、その運動をより楽しむために必要な「技能」である。技能を駆使すれば楽しさが生まれてくるのである。

(例えば、サッカーではドリブル、パス等である。)

本研究では、その運動が有する「運動の特性」を子どもたちが十分に味わうことにより生まれる楽しさを「運動の楽しさ」と捉え、体育授業の充実を図った。

また、体力の向上については、運動の日常化を目指し、体育授業以外の業間体育を充実することが重要と考え、日常的な取り組みの充実を図った。

(3) 主題に迫るための手立て

＜運動の特性を学ばせる体育授業の充実＞

① 学習過程の工夫 (MTMの流れ)

MTMとは、M (マッチ) → T (トレーニング) → M (マッチ) の略であり、授業での展開の流れを指す。最初に児童にゲームをさせる意図は、まずは「運動の特性」に触れさせ、その「運動の楽しさ」を味わわせるためである。そして、そのゲームを振り返り、成果や課題を生かして作戦や練習を考えて次のゲームに生かしていくことを繰り返すことで児童に学びの連続性を感じさせたいと考えた。

② ゲーム設定の工夫

「運動の特性」をどの児童にも学ばせるためには、上記の「運動の特性」を踏まえて、うまくできるか、できないかのギリギリのことに夢中になれるような「ルールの設定」「場」「扱う用具」の工夫を考えた。

③ 教師の指導・助言の工夫

教師が児童に身体的な動き方・チームでの動き方を考えさせるような指導・助言を工夫した。また、児童の中から出た身体的な動き方のよさや、チームでの動き方のよさを意図的に取り上げ、振り返りや作戦・練習時間で子どもたちに広められるようにした。